

第4回 六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会  
【議事要旨】

1. 日時

令和4年6月17日（金）15:00~17:00

2. 場所

三宮研修センター 7F 705号室

3. 出席者

有識者

小谷 通泰	神戸大学 名誉教授
織田澤 利守	神戸大学大学院工学研究科 教授
柏木 千春	大正大学 社会共生学部 公共政策学科 教授
清水 苗穂子	阪南大学 国際観光学部 国際観光学科 教授
横江 友則	一般社団法人 グローカル交流推進機構 専務理事

山上事業者

伊藤 浄真	摩耶山天上寺/摩耶山観光文化協会 副貫主
池田 淳八	八光カーグループ 会長
寺西 公彦	六甲山観光株式会社/六甲摩耶観光推進協議会 代表取締役社長
野澤 俊博	阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部長
川田 誉史子	一般財団法人 神戸住環境整備公社 事業再編推進室長

経済界

津田 佳久	神戸商工会議所 常務理事
-------	--------------

関係行政機関

東口 武生	国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市整備課（都市整備課長代理）
山野 順大	国土交通省 近畿運輸局 交通政策部 交通企画課（交通企画課長代理）
田橋 一	国土交通省 神戸運輸監理部 総務企画部 企画調整官
大利 泰文	神戸市 企画調整局 未来都市推進課長
清水 陽	神戸市 建設局 道路計画課長
栗山 明久	神戸市 建設局 公園部 森林整備事務所長
安藤 義治	神戸市 交通局 自動車部 市バス運輸サービス課長

#### 4. 議事次第

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 議事
  - (1) 六甲山・摩耶山関係の R4 年度予算
  - (2) 交通のあり方実現に向けた R4 年度の交通社会実験
  - (3) その他 (GW に実施した駐車場利用状況・渋滞長調査結果)
- 4 閉会

## 5. 議事要旨

【意見・質疑応答】

### 3 議事

(1) 六甲山・摩耶山関係の R4 年度予算

(2) 交通のあり方実現に向けた R4 年度の交通社会実験

#### ○委員

- ・ MaaS の本格実施となると、企画乗車券同様のサービスをスマホで提供するかどうかだけになるので、現時点の社会実験として六甲・まやレジャーきっぷを活用するという選択は非常に合理的。あわせて、以前もご提案した公共交通利用のインセンティブとして、アルコールの活用を付加することを検討してはどうか。例えば、今回の実験で、既存の六甲・まやレジャーきっぷにアルコール 1 杯券を追加してはいかがか。これは公共交通の利用促進だけでなく、渋滞緩和につながるかもしれない。
- ・ 摩耶山での一般車両を規制した上での実験は、非常に面白い試み。モビリティは移動手段でしかないが、摩耶山は新しいモビリティの専用エリアになるわけで、移動することが楽しい空間になる。自然があつて、楽しく移動できる、所々に魅力的なスポットがある、キッチンカーも点在し、食事やアルコールも楽しめる。1 つのテーマパークのようになるのではないか。新しい試みで、注目している。
- ・ 山上における既存路線バスの見直しについて、実験として六甲山～摩耶山の直通バスの運行の可能性はあるのか。
- ・ 山上の定住人口増加という観点で、実験期間中に住民向けのモビリティ乗り放題サービスがあってもいいかもしれない。

#### ○事務局

- ・ 六甲・まやレジャーきっぷは、実験期間中も従来通り窓口で販売している。ついては、窓口対応の混乱防止の 1 つとして、実験のモニターと駅窓口での購入者と差別化を図る必要がある。その一環で、モニターの方にはアルコールチケットを付加する等の対応は可能性がある。今後、関係事業者と調整していきたい。
- ・ 摩耶山での実験内容については、メリット・デメリットをしっかりと精査し検証したい。
- ・ 山上の路線バスの再編としては、今の 2 路線をベースにするか、1 路線に再編するか検討中。今回の実験では、この 2 系統をベースに行う予定。
- ・ 山上の住民は少ないものの一定数いらっしゃるので、実験の中で住民向けの内容も今後検討していきたい。

#### ○委員

- ・ 摩耶山での実験について、なぜ一般車からモビリティに乗り換えさせるのか。六甲山・摩耶山の活性化を考えるにあたって、乗り換えが生じることは良いのか。

#### ○事務局

- ・ 乗り換えは、摩耶山の将来像を踏まえた交通ビジョンを実現するにあたって必要になる。この辺りはこれまでも説明してきたが、六甲山や摩耶山のエリアとしての将来像は六甲山ランドデザインにて関係者で定めており、摩耶山は従来持っている自然、景観、文化等の資源を活かした

賑わいを創出していくと位置づけている。摩耶山の資源を満喫いただくためには、自動車を規制し、人と公共交通中心の空間にし、徒歩や公共交通でゆったりと自由に気軽に移動できる交通が良いのではないかと、1つの可能性としてご提案している。また、そのモビリティとしては、既存の路線バスよりグリーンスローモビリティが適していると考えられる。こういったことから、乗り換えが生じる。

○委員

- ・現時点で自動車から乗り換えず通行できる箇所をなぜ乗り換えさせるのか。
- ・荷物がある人、子ども連れの方にも配慮が必要。
- ・六甲山・摩耶山の活性化を考えるにあたっては、スムーズな交通が必要であると思うが、問題ないのか。

○事務局

- ・今回の提案のスタートは、六甲山と摩耶山の将来像が異なり、それにふさわしい交通ビジョンも異なるというところである。摩耶山の将来像を考えた時に、自動車でスムーズに移動できるということも良いが、思い切って自動車の通行規制を行い、乗って楽しいモビリティに乗り換えていただき、摩耶山の資源を満喫いただくことが選択肢になり得るのではないかと考えている。その結果、六甲山牧場が目的だったが、掬星台まで足を伸ばそうという需要も増えるかもしれない。一方で、当然、なぜ車から乗り換えなければならないのかといった抵抗もあろうかと思うので、今回の実験でその辺りをしっかりと検証する。

○委員

- ・牧場から掬星台という動線を考えるよりも、市街地からのアクセスを改善する方が良いのではないかと。まやビューラインは摩耶ケーブル駅の立地が悪いという課題があり、まずそこまで足が伸びない。であれば、三宮や新神戸、布引あたりからロープウェーを整備した方が、摩耶山の活性化につながるのではないかと。

○事務局

- ・山上アクセスの抜本的な改善については、第2回でも同様のご提案もいただいており、六甲山・摩耶山の活性化のために非常に重要なポイントになることも認識している。今後の検討会の中で、検討結果もお示していきたい。

○委員

- ・グリーンスローモビリティは摩耶山にとって1つの起爆剤にならないかと期待している。摩耶山上の各施設をグリーンスローモビリティで繋げてほしい。
- ・六甲山と摩耶山の違いの1つは民間施設の有無。摩耶山は、牧場や自然の家、オテルド摩耶、掬星台、これら全てが市ないしは市の外郭団体の施設であり、民間施設が1つもない。ただ、オテルド摩耶が閉館し、自然の家も老朽化が問題になっており、これらの施設は今後再整備が予定されている。こういった施設のあり方も含めて、摩耶山のあり方を再考すべきではないか。まずは、山上の魅力づくりを考え、それらをグリーンスローモビリティでつなげていくことが大事。
- ・時間とともに変わりゆく景色、四季の移り変わりなど、自然を体験、味わえる山になってほしい。そのためには、ある程度の宿泊施設やキャンプ場のような施設が必要。また、交通としては、ロープウェーやグリーンスローモビリティ、バスなどの公共交通が重要。ただ、妊婦の方や高齢者

の方も一定数山上に訪訪されるので、乗り換え抵抗がいかほどかは不明。どうしても自動車で乗り入れないといけない方には、協力金のような形でお金を支払っていただくのも1つの形かもしれない。

#### ○委員

- ・実験日数からして、モニターの募集人数は適切か。また、山上までのアクセス手段や個人属性等でモニター募集数をあらかじめ設定しておいた方が良いのではないか。
- ・摩耶山の実験については、キッチンカーやマルシェ等、楽しめる箇所がたくさんあるということをしかりと広報することが必要。
- ・実験はまずやってみることが大事。実験をして初めて見えてくることもあると思うので、楽しみにしている。

#### ○委員

- ・六甲山と摩耶山の活性化のあり方は異なる。
- ・摩耶山の交通ビジョン実現に向けた取り組みとして、「④人と公共交通の優先エリア化」「⑤乗って楽しい気軽なモビリティの導入」という立て付けで提案しているので、それぞれ別の施策として実験をしようとしているが、双方1つのストーリーではないか。人と自然に優しい摩耶山にふさわしい交通のあり方は何かという立て付けの実験の方が良いのではないか。
- ・六甲・まやレジャーきっぷを活用したモニター調査で、「P&Rの推進」と「MaaSによる目的と手段の一体的な提供」の両方を検証するのは難しいのではないか。本来、MaaSは1操作で複数種の交通手段や宿泊や入場の予約ができる便利なサービスを用いて、市街地から六甲山・摩耶山に行きたいという需要を増やすもの。ただ、この実験では、当日のモニター獲得場所に六甲ケーブル下駅や摩耶ケーブル駅が含まれており、この時点で既に六甲山・摩耶山に行こうという意思がある方達なので、そういった方の回答はあまり参考にならないかもしれない。他の方法で、MaaSの効果やニーズの検証が行う方法としては、例えば、KOBE観光スマートパスポートの利用者に対して、六甲山・摩耶山の利用率や訪問回数、回遊性等のデータから分析する、また利用者にアンケートを行うなど。
- ・行動の変化の把握において、施策の実施前後で比較検証できないと意味がない。
- ・社会実験によりメリットもデメリットも出てくると思うが、是非悪い意見に目を向けてほしい。また、デメリットの意見を具体的に把握できるアンケート設計が重要。

#### ○委員

- ・山上アクセスは重要な要素なので、実験に組み込めないのであれば、実験参加者にアンケートでアクセスについても聞いて欲しい。
- ・摩耶山において、一般車の通行禁止を一概に行うのではなく、一般車も速度を守って走行できるという選択も出来るようにした実験内容に出来れば、乗り換え抵抗を把握できるのではないか。ただ、人と公共交通中心の空間や賑わいといった魅力は一定程度削がれてしまうだろうが、工夫で何とかならないか。
- ・今回の実験で複数の施策の検証を一気に行わなくても良いかもしれない。

#### ○事務局

- ・モニター募集については、可能な限り200名以降確保していきたい。また、偏りが出ないように

最初の設定、モニター募集方法等も今後検討していく。

- ・摩耶山における「④人と公共交通の優先エリア化」「⑤乗って楽しい気軽なモビリティの導入」は、密接に連携していく施策である。頂いたご意見も踏まえて、立て付けは整理していきたい。
- ・KOBЕ 観光スマートパスポート利用者の行動等の把握については、所管部局とも相談したい。入手できれば、実験参加者との比較検討など、より効果的な検証も可能になると思う。
- ・施策の実施前後での比較検討については、現地でのヒアリングや WEB 調査等で実験前の状況も把握していきたい。
- ・山上アクセスについては、アンケートに組み込み把握する。

#### ○委員

- ・オテルド摩耶が閉館してからどれくらい経つか。

#### ○事務局

- ・1年2ヶ月。

#### ○委員

- ・オテルド摩耶も自然の家も今後リニューアルが予定されているので、リニューアル後などの周辺の環境が整ってから、実験をしてはどうか。

#### ○事務局

- ・オテルド摩耶や自然の家がリニューアルされることで、摩耶山がより魅力的なエリアになることは間違いないが、現時点でも豊かな自然や文化などの資源が豊富で、グリーンスローモビリティでゆったりと移動いただくという価値は十分あると思う。については、一度実験を行い、乗り換え抵抗も含め、しっかりと効果検証、課題把握を行い、今後の更なる検討につなげたい。

#### ○委員

- ・摩耶山のビジョンから、どういう実験内容が良いのか、時期も含めて考え直してはどうか。また、賑わい内容も地元の方とよく連携して、考えた方が良いかもしれない。
- ・一方で、山上の路線バスの見直しについては、待たなしで早く改善していくべき。

#### ○委員

- ・山上の路線バスの見直しについては事業者としても需要に適した運行が望ましいので、今回の検証についての異存はない。
- ・六甲・まやレジャーきっぷを使った回遊性の検証については、他の委員からのご意見にもあったように、公共交通機関を使って山上でお酒を楽しむイベントとして、料飲できる各施設で連携して行ってはどうか。お酒を前面に出して広報を行えばパブリシティとしても効果的では。
- ・グリーンスローモビリティは、ケーブルカーやロープウェイと同様に、それに乗ること自体を楽しむお客様もいらっしゃると思う。マルシェやフリーマーケット、キッチンカーなどのイベントも予定されているので賑わい創出の社会実験としては良いのでは。ただ、事前の広報は重要。
- ・最近、六甲山・摩耶山への自転車やハイカーが増え、バスや一般車との交錯で危ないことが増えた。自転車道や歩道の整備は重要。また、六甲山上駅から各施設への歩道の整備は公共交通機関の利用促進にも有効。

#### ○委員

- ・バス事業者を取り巻く環境は、収支、特にコロナでの影響で悪化しており、更に運転士不足もあ

り、非常に厳しい。そうなると、効率性を優先することになる。今回の社会実験でも、現状の輸送力を維持しながら最大限できるところで協議を行っている。六甲山・摩耶山に割ける車両数なども限りがあるので、輸送力も限りがある。バスだけでなく、他のモビリティとの最適な役割分担を検討することが重要。

- ・自転車から見える景色と車から見える景色は異なる。自転車にも優しい空間となれば、新たな需要も生まれるかもしれない。

#### ○委員

- ・楽しいといった要素、インセンティブなども重要だが、広報は非常に重要。モニターの募集についても、六甲山や摩耶山のビジョン、交通ビジョンなどを示して、六甲山・摩耶山の活性化を望んでいただいている方になっていただけるように、方法を考えてほしい。

#### ○委員

- ・これまで様々な検討課題や検討の視点などの議論があり、今の形に至っている。これが合っているのか、合っていないのかを検証するために社会実験はすべきだと思う。社会実験を実施することで見えてくることもある。
- ・実験期間はもう少し伸ばせると良いが、様々な調整の結果だと思うので仕方がない。
- ・摩耶山の実験については、他の場所で応用が利く、適するかもしれない。可能性を広げるという意味でも、まずは実施してはどうか。
- ・都心からのアクセスがダイレクトに改善された場合に山上の交通がどうあるべきかという視点で考えるべき。現状を改善するという視点だけではスケールが小さい。

#### ○事務局

- ・実験参加者の回遊の実態については、訪問施設、立ち寄り箇所数、滞在時間、消費金額等の詳細を把握したいと思っている。その結果を踏まえて、六甲山・摩耶山の活性化のための施策が今の提案で良いのか検証したい。
- ・歩道や自動車専用道の整備にかかる意見については、この検討会の中でも何度か出てきているが、山間部という地理特性上、市街地と比べて、難易度は高いと考えている。ただ、道路管理者等とも相談していきたい。
- ・広報についても、本日様々な委員からコメントを頂いている。しっかりと効果的な広報の内容や方法を考えたい。
- ・市街地からのアクセス改善があつての山上交通なので、次回以降の検討会で議論していきたい。

#### ○委員

- ・摩耶山の実験内容については要検討という意見があつたが、全体として実験自体は実施という意見が多かつたと思うので、その方向でいかがか。現時点での内容はまだ粗い段階なので、今日出た意見を反映させながら、精査を行っていただきたい。特に、摩耶山についてはこのエリアのビジョンが実現できるような実験内容、自動車の規制の話も含めて、どういった内容で実施するのかベストなのか詳細に検討を進めていただきたい。

### (3) その他

#### ○委員

- ・調査結果と私の認識に齟齬がある。特にグリーンア付近の東行きと六甲山牧場付近の西行き。どのような調査方法か。

#### ○事務局

- ・調査箇所である3施設の各駐車場の出入り口にビデオカメラを設置し、あわせて周辺のポイントに調査員による調査を行った。

#### ○委員

- ・丁字ヶ辻は調査していないのか。

#### ○事務局

- ・3施設の駐車場の満車が原因での渋滞となるため、基本的には3施設付近と渋滞最後尾で調査員が確認した。

#### ○委員

- ・掬星台から丁字が辻までは渋滞はなかったが、丁字ヶ辻を越えて渋滞していたと思う。

#### ○事務局

- ・調査日当日は現地で立ち会ったが、調査結果と現地の状態に齟齬は無い。調査時間が1時間ごとであるので、タイミング等で多少齟齬は出るかもしれない。

#### ○委員

- ・私の認識と異なる。
- ・活性化を考えるにあたって、駐車場が足りないという点を早く改善して欲しい。

#### ○事務局

- ・駐車場整備を前提に、お盆などの繁忙期に引き続き調査を行い、どの駐車場にどれだけ増やすのが良いのか検討したい。

#### ○委員

- ・渋滞のデータを的確に捉えるのは困難。共通の認識のもとで対策を検討する必要があるので、山上事業者の意見も踏まえて、調査場所も検討し、調査を継続して欲しい。

#### ○委員

- ・現在、暴走族対策として、カメラ設置の話をいただいている。そのデータを活用することも考えられる。

#### ○委員

- ・ここまでひどい渋滞は年に数日という認識は合っているか。

#### ○委員

- ・合っている。

#### ○委員

- ・年に数日のための対策と日常の対策を分けて検討することが必要。
- ・神戸市の令和4年度予算で、六甲山・摩耶山の活性化が約3億7,000万というのは、多くの事業の合算という理解でいいか。

#### ○事務局

・その通り。箇条書きで記載できていないが、歩道整備等も入っている。

○委員

・先程からご意見のあった自転車利用者の需要もあるので、考えていくべき。